ミニ図鑑　深田公園の植物

里山の樹木



兵庫県立人と自然の博物館



アカマツ

マツ科

Pinus densiflora

常緑高木。名前は樹皮が赤いことから。葉は針形で尖るが海岸に多いクロマツほど硬くない。花期は 4 ～ 5 月。球果(松笠)は翌年の秋に熟す。建築材、杭木、燃料など材の用途は幅広い。



ミツバアケビ

アケビ科

Akebia trifoliata subsp. *trifoliata*

つる性落葉木本。アケビの小葉が 5 枚で全縁なのに対し、ミツバアケビは 3 枚で波状の鋸歯がある。花期は 4 ～ 5 月。写真は上が雌花、下が雄花。アケビは開け実で、熟すと開くことから。



ネムノキ

マメ科

Albizia julibrissin var. *julibrissin*

落葉高木。軸に小葉がたくさんつく。名前は暗くなると葉全体が閉じて垂れ、眠っているように見えることから。花期は 6 ～ 8 月。写真で桃紅色に目立つのは雄しべ。



フジ

マメ科

Wisteria floribunda

つる性落葉木本。別名ノダフジ。花期は 4 ～ 5 月。青紫色の花が次々に咲き、山をきれいに彩るが、他の樹木の上で葉を広げたり、幹を締めつけたりして枯らしてしまうこともある。



ヒメコウゾ

クワ科

Broussonetia monoica

落葉低木。花期は４～５月で、写真は上が雌花序、下が雄花序。果実は液質で赤色に熟す。甘いが舌触りが悪い。和紙の原料とされるコウゾはカジノキとヒメコウゾの雑種といわれる。



ザイフリボク

バラ科

Amelanchier asiatica

落葉小高木。花期は３～４月。名前は「采振木」で、細長い花弁を采配に見立てたもの。別名シデザクラ。シデは玉串やしめ縄などに垂れ下げる白い紙の「四手」で、これも花にちなむ。



カスミザクラ

バラ科

Cerasus leveilleana

落葉高木。花期は４～５月で、ヤマザクラやソメイヨシノより遅い。花弁は白色または淡い紅色をおびる。花柄や葉柄にふつう開出した毛がある（ヤマザクラは無毛）。



ウワミズザクラ

バラ科

Padus grayana

落葉高木。花期は４～５月。長く突き出た雄しべが花弁より目立ち、花序がブラシのように見える。蕾や若い果穂は塩漬けにし、食用とされる。熟した実は果実酒に使われる。



クリ

ブナ科

Castanea crenata

落葉高木。花期は 6 ～ 7 月。写真で白く目立つのは雄花序。香りが強く、花粉は虫によって運ばれる。雌花は花序のもとの方につく。「いが」の部分が殻斗で、熟すと割れ、栗の実が見える。



クヌギ

ブナ科

Quercus acutissima

落葉高木。各地で植えられ、薪や炭に使われた。現在はシイタケのほだ木としてよく用いられている。花期は 4 ～ 5 月で、写真は雄花序。殻斗には細長い鱗片がつく。果実は 2 年目に熟す。



コナラ

ブナ科

Quercus serrata subsp. *serrata* var. *serrata*

落葉高木。松枯れ後の樹林の高木層を優占している種。表紙写真で、縦割れ模様の太い幹をもつものがコナラ。花期は 4 ～ 5 月で、黄色い雄花序が目立つ。殻斗にはうろこ状の鱗片がつく。



アラカシ

ブナ科

Quercus glauca

常緑高木。将来コナラに代わり高木層で優占すると考えられる種。葉は革質で厚い。花期は 4 ～ 5 月。殻斗は同心円状の模様をしている。刈り込みに強く、生垣にも使われる。



コマユミ

ニシキギ科

Euonymus alatus f. *striatus*

落葉低木。枝にひれ(翼)のあるのがニシキギで、ないのがコマユミと呼ばれる。葉は濃い赤紫色に紅葉する。ニシキギは「錦木」で、この紅葉の美しさから。花期は 4 ～ 5 月。



ヤマハゼ

ウルシ科

Toxicodendron sylvestre

落葉高木。赤みを帯びた軸に 4 ～ 6 対の小葉がつく。ヤマハゼの葉には毛があるが、似たハゼノキの葉は無毛。秋の紅葉はどちらも美しい。花期は5～6月。雌雄異株で、写真は満開の雄株。



イロハモミジ

ムクロジ科

Acer palmatum

落葉高木。葉が「いろはにほへと」で 7 つに裂けることが名前の由来だが、5 つや 9 つに裂けることもある。花期は 4 ～ 5 月。雌雄同株で、一つの花序に雄花と両性花が混ざる。



ウリカエデ

ムクロジ科

Acer crataegifolium

落葉小高木。雌雄異株で、写真は雄株。花期は 4 ～ 5 月。花は淡い黄色で、若葉も輝きがあって美しい。葉の裂ける程度は様々。名前は緑色の樹皮をマクワウリの果皮に例えたことから。



ヤマボウシ

ミズキ科

Cornus kousa subsp. *kousa*

落葉小高木。花期は 5 ～ 7 月で、梅雨時に山を白く彩る。名前の山法師は、この白い部分（総苞）を頭巾に、中心の丸い花序を僧の頭に見立てたもの。実は赤く熟して甘い。



ウツギ

アジサイ科

Deutzia crenata var. *crenata*

落葉低木。花期は 5 ～ 7 月。枝が中空になるので空木、卯月（旧暦 4 月）に咲くから卯木・卯の花、また田植え花とも。刈り込みに強く、庭木や土地の境木として植えられる。



ヒサカキ

サカキ科

Eurya japonica

常緑の低木から小高木。花期は 3 ～ 4 月で、独特の強い臭いがある。ヒサカキの枝葉は神事に使われるサカキ（榊）の代用品として使われる地域もある。雌雄異株で、写真は満開の雄株。



リョウブ

リョウブ科

Clethra barbinervis

落葉小高木。樹皮がはがれ落ち、まだら模様になる。若葉は食用になる。天ぷらやまぜご飯、また茹でて乾かしてから保存し、救荒食として使われたという。花期は 6 ～ 8 月。



コバノミツバツツジ

ツツジ科

Rhododendron reticulatum

落葉低木。花期は 3 ～ 4 月。花は葉が広がる前に開き、春先の里山を紅紫色に染める。葉は枝先に 3 枚集まってつき、裏の網目模様が目立つ。本州中部から四国、九州にかけて分布する。



モチツツジ

ツツジ科

Rhododendron macrosepalum

半常緑低木。花期は 4 ～ 5 月。花は明るい紅紫色で、葉も同時に広がる。名前は萼や花柄にねばねばする毛がつくことから。近畿地方を中心に本州、四国でみられる。



ヤマツツジ

ツツジ科

Rhododendron kaempferi var. *kaempferi*

半常緑低木。花期は 4 ～ 6 月。花は朱色で濃色の斑点がある。半常緑性で、春にでる春葉と、夏以降にでて冬芽を囲む夏葉がある。北海道から本州、四国、九州にかけ広く分布する。



アセビ

ツツジ科

Pieris japonica subsp. *japonica* var. *japonica*

常緑低木。花期は 3 ～ 5 月で、壺形の花を鈴なりにつける。有毒植物でシカの多いところではよく群生している。樹皮は次ページのネジキに似て、少しねじれる。



ネジキ

ツツジ科

Lyonia ovalifolia var. *elliptica*

落葉小高木。花期は 5 ～ 6 月で、壺形の白い花が下向きに並んで咲く。有毒植物。若い枝は赤茶色で、塗り箸のような光沢があって美しい。名前は幹がねじれることから。



ナツハゼ

ツツジ科

Vaccinium oldhamii

落葉低木。葉の表面やふち、裏の脈上に粗い毛が多い。花期は 5 ～ 6 月。赤みをおびた淡黄緑色の花を下向きにつける。実は黒く熟して甘酸っぱく、食べられる。



カンサイスノキ

ツツジ科

Vaccinium smallii var. *versicolor*

落葉低木。名前のカンサイは関西で、本州、四国に分布する。スノキは酸の木で、葉を噛むと酸味を感じることから。花期は 4 ～ 6 月。実は黒く熟して甘酸っぱい。



アクシバ

ツツジ科

Vaccinium japonicum var. *japonicum*

落葉低木。若い枝は緑色で、ジグザグに曲がる。葉柄はほとんどない。葉の質は厚く、裏の細脈が目立つ。花期は 6 ～ 7 月。花冠は深く 4 裂し、渦巻き状に反り返る。実は赤く熟す。



マルバアオダモ

モクセイ科

Fraxinus sieboldiana

落葉小高木。花期は 4 ～ 5 月。花冠が深く裂け、花序がブラシのように見える。名前のマルバは葉の鋸歯が目立たないことから。雌雄異株で、写真は満開の雄株。



ムラサキシキブ

シソ科

Callicarpa japonica var. *japonica*

落葉低木。花期は 6 ～ 8 月。実は紫色に熟して美しく、庭木によく使われる。葉は両面無毛。似た種にヤブムラサキがあるが、葉全体に柔らかい毛が多く、区別できる。



ソヨゴ

モチノキ科

Ilex pedunculosa

常緑高木。葉は全縁で、ふちが波打つ。名前はやや硬い葉が風に吹かれてそよぎ、音を立てることから。花期は 5 ～ 7 月。雌雄異株で、写真は雄株。実は赤く熟して目立つ。



コウヤボウキ

キク科

Pertya scandens

落葉小低木。名前は高野山で枝を箒の材料にしたことから。花期は 9 ～ 10 月で、当年枝の先に頭花を一つずつつける。当年枝の葉は卵形だが、前年枝につく葉は細長く、形が異なる。



タカノツメ

ウコギ科

Gamblea innovans

落葉高木。葉は 3 つの小葉に分かれる。秋に黄葉し、里山を彩る。若芽は山菜として食される。名前の「鷹の爪」は冬芽の形にちなむ。花期は 5 ～ 6 月。雌雄異株で、写真は満開の雄株。



コシアブラ

ウコギ科

Chengiopanax sciadophylloides

落葉高木。葉は 5 つの小葉に分かれる。掌状に広がり、秋に淡く黄葉する。若芽は美味な山菜。名前の「漉し油」は樹脂から鉄のさび止めに使う油を採ったことから。花期は 8 ～ 9 月。



ハリギリ

ウコギ科

Kalopanax septemlobus subsp. *septemlobus*

落葉高木。葉は掌状に 5 ～ 9 裂する。名前は若い枝や幹にとげが出て、材がキリ（桐）に似ていることから。花期は 7 ～ 8 月。写真の赤紫色に見える部分は雄しべの葯。



カクレミノ

ウコギ科

Dendropanax trifidus

常緑高木。若木の葉は 3 ～ 5 裂するが、成木では分かれず、ひし形から卵形になる。名前はこの葉の形を民話の隠れ蓑に見立てたもの。花期は 7 ～ 8 月。写真では若い果実が目立っている。



コバノガマズミ

ガマズミ科

Viburnum erosum var. *erosum*

落葉低木。葉はミヤマガマズミよりも小さく、細長い。両面に毛があり、触ると滑らかな感じがする。葉柄は短い。花期は 4 ～ 5 月。雄しべは花冠から長く突き出る。



ミヤマガマズミ

ガマズミ科

Viburnum wrightii var. *wrightii*

落葉低木。コバノガマズミよりも葉が大きく、ひし形から丸形で、表面はほとんど無毛。はっきりとした葉柄がある。花期は 4 ～ 5 月。果実はコバノガマズミと同様、赤く熟す。



ツクバネウツギ

スイカズラ科

Abelia spathulata var. *spathulata*

落葉低木。花期は 4 ～ 6 月。名前のツクバネは萼片が残る果実を羽根（羽子）に例えたことから。放すと回りながら落ちる。アベリアの名で親しまれるハナツクバネウツギと同じ仲間。



ミヤマウグイスカグラ

スイカズラ科

Lonicera gracilipes var. *glandulosa*

落葉低木。先のふくらんだ毛（腺毛）が若枝、花柄、果実などに多くつく。花期は 4 ～ 5 月で、下向きに咲く。果実は赤く熟し、甘みがあって食べられる。



【概要】深田公園は人と自然の博物館の周りに広がる公園です。芝生広場だけでなく、樹林、草地、水辺など多様な環境があり、いろいろな生きものが暮らしています。ここでは樹林（燃料や肥料を得るために利用管理されていた里山林）でみられる身近な樹木と、つる性の木本を紹介しています。科の並び順と学名は「改訂新版 日本の野生植物（平凡社）」に従っています。

【観察ポイント】花期の写真を中心に載せています。花と合わせ、葉や枝ぶり、幹の模様、樹形なども観察してみましょう。芽吹き、新緑、開花、結実、紅葉、落葉、そして冬越しと、四季の変化も見どころです。身近な樹木に親しむことで普段の散歩や休日の山歩きも一味違ったものになることでしょう。

【注意事項】樹林の中はスズメバチが多く危険です。樹木は広場や園路から観察するようにしましょう。植物の中にも、かぶれやすいウルシ科の樹木のように注意の必要なものがあります。また毒成分を含むものもあるので、果実などをむやみに口に入れてはいけません。枯れ枝の落下にも気をつけましょう。

著　者　黒田有寿茂　　発行日　2022（令和 4）年 2 月 1 日
発　行　兵庫県立人と自然の博物館　　印　刷　株式会社荒木印刷　　03 教Ⓟ2-033A5